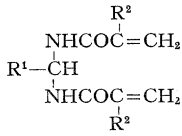


土 壤 安 定 方 法

特公 昭 35-16318

発明者 **ロ ス, R. W.**

式



(上式中 R¹-CH はアルデヒドの炭化水素残基, R² は水素である)

およびメチルの単量アルキリデンビスアクリルアミドと、これと共重合しうるエチレン系単量体(アクリルアミドなど)を重量比で約 0.005:1~0.2:1 の割合で混合した共重合可能混合物を土壤に適用するに当り、上記混合物の重量を基準として約 0.1~10% のニトリロトリスプロピオンアミドおよび第二成分としての酸化剤をふくむ二成分酸化還元触媒系の添加によって土壤を非透水性の状態に安定せしめるものである。

グラウトを加圧注入する方法

特公 昭 35-16320

発明者 **レーマー, S.J. 外1名**

懸濁液中に固体粒子をふくんだ液体グラウト(セメント基体グラウトなど)を該固体粒子が砂粒子間を通過しがたいような粒度をもった砂中(粒径 0.06~2mm)に加圧注入するにあたって、まずゲル化作用を起こす低粘度溶液を砂中に加圧注入し、すくなくともゲル化作用が始まったのちに前記の液体グラウトを砂中に加圧注入するようにしたもので、ゲル化作用を起こす低粘度溶液の好ましい基体混合物として、

カルシウム リグニンスルフォネート (糖分 8%以下)	重量部 30~60
重クロム酸ナトリウム	10
硫酸アルミニウム	10
および基体混合物の重量%で表した加速剤	
硫酸銅および	1~5%
塩化カルシウムまたは	1~10%
塩化ナトリウム	2~20%

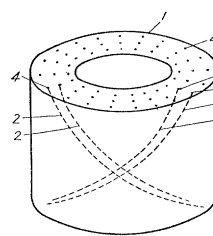
この混合物を水 3¹/₂~6 部と混合したものをあげている。

厚肉中空柱状コンクリート構造物への
元応力導入方法

特公 昭 35-16820

発明者 **坂 静 雄**

従来コンクリート製中空罅体に元応力を導入するには一連の緊張材を柱体の外周に巻回緊張したり、あるいは壁体内周方向にわたって埋設された片々区々の緊張材を柱体の側面に引きだして緊張する方法がとられている。これらの方法は、柱体の周方向に元応力を導入することを主眼とするもので、薄肉パイプ、タンクなどに限って実施されているが、たとえば放射線遮蔽用中空柱体のように肉厚の大きい場合は十分な大きさの周方向の元応力を導入することが困難であった。この発明は肉厚のきわめて大きい中空柱体コンクリート構造物に対してもその周方向ならびに軸方向に十分な大きさの元応力を導入し、この構造物の耐震性を増大させるとともにきれつ発生を防止できるようにしたものである。



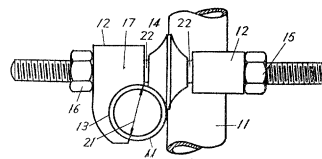
元応力を導入すべき中空柱状コンクリート構造物(1)の周壁内に一群の緊張材(2)を大体スパイラル線に沿って空間曲線もしくは折線状に平行して配設し、また他群の緊張材(3)を緊張材(2)と鏡面对称に配設し、これらの緊張材(2)(3)の端部を構造体の端面において緊張してこれを部分(4)において定着する。この方法によれば必要なだけの緊張材を配設でき、しかも、これらの緊張材を構造物の上端から緊張できるとともに、周壁内において斜方向に空間曲線もしくは折線状に配設したので、水平および垂直分力によって構造物に周方向、軸方向に元応力が導入できる。

管状構造物用クランプの改良

特公 昭 35-16821

発明者 **ラムステン, C.**

足場などに使用する管または丸い断面の部材を接合保持するクランプの改良であって、一



対の向い合ったクランプ部材(12)は管(11)を保持するに適した円筒形の凹み(13)を有し凹みの軸と直角方向にボルト(15)挿通用の穴が設けられている。クランプ部材の間でボルト上に位置する座金(14)は隣接するクランプ部材の凹みと同じ半径で内方に弯曲した両面を有し、クランプ部材、座金、ボルトを図のように配置しボルト両端をナット(16)で緊縮する。(特許庁審査第二部 **荒木 達雄**)